

修論卒論発表会

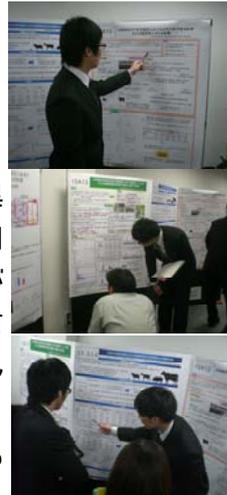
去る2月8・9日W106教室にて、平成22年度農学研究科応用生物科学専攻修士学位論文発表会が行われました。我らが畜産資源学分野からは、加藤さん・酒井さん・スリタヤこさん・中川(智)さん・柳さんのM2勢5名が、初日のトリを飾って発表を行いました。



途中、先生がベルの回数を勘違いし質疑応答を中断してしまう、などなどありましたが、皆さん直前までしっかり準備されていたので、発表・質疑応答ともスムーズで分かりやすかったです。サスガだなと思いました。来年は我が身！皆さんをお手本に、僕たちも頑張りたいと思います。

そして翌週2月15日には、西田君・前野君・安在君(オーバーエイジ枠)の4回生トリオが、農学部大会議室にて行われた卒業論文ポスター発表会に臨みました。

昨年の教訓からか(笑)、皆さんお早にお着きで、自分の担当時間までモチベーションを高めていたようです。全く異なる分野の方からも質問があり、やや緊張しながらも熱心に受け答えしている姿が見受けられました。ちなみに西田君は、「LCAって何？」と何回も尋ねられたそうです。僕も去年、「TMRって何？」と聞かれたことを思い出しました。



何はともあれ無事、修論卒論発表会を終えられてホッとされているのではないのでしょうか。M2・4回生の皆さん、本当にお疲れ様でした！ぜひとも何ヶ月にも渡って酷使し続けた己の心身を労わってあげてください☆

いっしー



北野天満宮梅苑

目次:

広岡先生の随筆 ④評価の難しさについて	2
ICARDA	3
修論卒論打ち上げ	4
カニユール装着	4
冬の風物詩	4
お知らせ	5

2月下旬から、急に寒さが和らぎました。水道から流れる水で食器を洗っても、骨に痛みを感じることはなくなりました(^^)。今年は厳しい冬でしたが、季節はちゃんと移ろうもの、春の芽吹きと新しい環境での生活は、もうすぐそばまで来ています。今年度はたくさんの方のメンバーが研究室を去り、来年度からは雰囲気も大きく変わるような気がします。Goat Bulletinがいつまで続けられるかは、現在のところ未定ですが、今年度もご愛読ありがとうございます。

吉田神社の節分祭

2月3日に吉田神社の節分祭へO石先生とうなぎくんと行ってきました。吉田神社についてから、圧倒的な数の屋台と



人に辟易しながらも、お参り、一等のヴィッツを狙ったくじ引き、達磨おみくじ、屋台での買い食いと節分祭の表面を楽しみました。

私は京都に住んでもうすぐ7年ですが、今年初めて吉田神社の節分祭に行きました。とっても楽しいイベントですので、みなさんも来年参加してみたいかがでしょうか。



Dr. ういろう



←畜産資源に出没した鬼

好評連載 広岡先生の随筆

④ 評価の難しさについて



昨年暮に行われたM-1グランプリにはいろいろと考えさせられた。M-1グランプリとは、ご存知のように、結成10年以下の若手漫才師の日本一を決めるイベントで、関西人である我が家では、みんなで見る年末の恒例の娯楽である。私の息子などは、1回戦で敗退したとはいえ、M-1グランプリの予選に参加していたほどである。



昨年末のM-1グランプリは、10年目で、また最後の大会ということで、下馬評では、最後に花を持たせるという意味で、笑い飯（コンビ名）の優勝が期待されていた。笑い飯は、初回の大会から、毎回厳しい予選を勝ち抜き決勝戦まで進み、さらに決勝戦での1回目のパフォーマンスでは素晴らしいネタを披露して、最後の決勝3組にまで残るのであるが、不思議と決勝戦2回目のパフォーマンス（最後の3組は2回目のパフォーマンスをして、優勝者を決める）でKY（空気を読めない）なネタを披露して、準優勝以下に甘んじて、無冠の帝王状態であった。したがって、昨年は、最後ということで本人たちも意気込み、また周りも実力は十分なので、優勝させてやりたいと思っていたことは確かであった。

ところが、世の中でしばしば起こることであるが、ほとんど無名のスリムクラブというコンビが、審査員のみならずわれわれ視聴者もびっくりするような異次元のネタを披露し、優勝者を決める最後の審査員の判定も微妙となってしまった。しかし、7人の審査員が投票で4対3となり、結局、笑い飯に軍配が上がった。

その判定に関しては、私はいろいろと考えさせられた。私が見ても、確かに一番おもしろかったのは、スリムクラブであった。しかし、それは、初めて見る新鮮さも加わった結果で、それを何度も見た時に、同じようにおもしろく感じるかは別である。笑い飯のネタも、さすがに賞を取りにきていたこともあり、おもしろかったが、しかし、初めて見るスリムクラブのインパクトには勝てなかったと言うのが一般的な見方であろう。

ここで問題は、このようなケースでは、どのように評価すべきなのかということである。確かに、M-1グランプリの主旨は、その時一番おもしろいものを決めることで、その意味では、スリムクラブの優勝であったはずである。実際、我が家では、私以外は、あの判定はおかしいと言う。だが、もし私が審査員であれば、笑い飯を選んでいたいと思う。

以前にも述べたことがあるが、最近の学会には、発表賞を出しているところが多い。これは主に若手を対象としたもので、年齢制限がある。私は、このような発表賞に関しては、若手の研究意欲の向上と就職活動に有利になることを考えた場合、発表賞自体はよいことで、学生たちに賞の獲得をめざすように指導している。しかし、本当の意味での評価対象としては、疑問を持っている。確かに、プレゼン技術はこれからますます重要となると思うが、私の経験上、発表賞は、内容よりもスライドのカラフルさや質問に対する受け答えの成否で評価される傾向が強いように感じられる。学術論文は、少なくともその分野の専門家が2人以上ついて、内容をじっくりと時間をかけて審査する。さらに言えば、学術論文の審査は、発表賞のようなその場での評価と異なり、内容が不案内であれば、査読者自身も調べ、勉強することも可能である。それに対して、発表賞は、どの学会でも審査員が多分野にわたり、内容の評価は学術論文の場合と比べて、曖昧にならざるをえない。

M-1グランプリの評価は、発表賞の評価と似通っている。確かに、その時一番おもしろい漫才、一番よい学会発表を選ぶという意味では正当である。しかし、畜産学会で言えば、多くの原著論文の内容を総合して評価する学会賞や奨励賞は、発表賞と区別して評価されてしかるべきである。

最近、若手がとった学会での発表賞を、自分の賞として賞罰の欄に書いている年配の研究者が時々いるが、その違いが分からないようならば研究者失格である。このような状況が、賞の価値を下げ、結局、自分の首を締めることになる。

ところで、今年の畜産学会奨励賞の一人として、長命君が選ばれた。この賞は正真正銘、しっかりした評価の上に成り立つ賞で、彼のこれまでの努力の積み重ねが評価された結果と考えられる。心から、祝福したい。また、われわれとの共同研究であった荻野さんの研究が、Animal Science Journal Excellent Awardに選ばれた。われわれの研究室もたいしたものである。

広岡博之

International Center for Agricultural Research in the Dry Areas (ICARDA)

2010年11月21日から2011年1月22日まで、平成22年度「国際共同研究人材育成推進・支援事業」により、シリアにある国際乾燥地農業研究センター(ICARDA)で研修を受けました。



私のICARDAでの研究は、放牧羊の分娩前と分娩後の行動の違いを比較することでした。放牧している羊にGPS首輪と三次元加速度センサーを装着し、羊の位置情報と活動データを取得し、同時に羊の行動の直接観察をしました。私にとって初めての海外での研究だったので、言葉や文化の違いに戸惑うことも多かったですが、研究を通して貴重な経験ができました。将来にまた海外で研究したい、というモチベーションを得ることができました。

今回のシリアでの滞在でいろいろな人と知り合うことができました。ICARDAの受入研究者をはじめ、他の研究分野の研究者とも知り合いになりました。また、私が宿泊していたゲストハウスには、私と同じような研修生が滞在して

おり、そこで、いろいろな国から来た、いろいろな研究分野の研修生と友達になりました。知り合えたのは外国人ばかりではなく、JICAの研究者あるいは協力隊員の方々、ICARDAに研究に来ていた日本の大学の学生など、多くの日本人とも知り合いになることができました。この2か月間で得た彼らとの貴重な出会いを今後も大事にしていきたいと思っています。

みなさんはシリアと聞くと、治安が悪いやイスラム教独特のタブーが多そうなどの印象を抱くかもしれませんが、あるいは全くイメージがわからないという方もいるかもしれません。しかし、実際には、シリアはとても安全で過ごしやすい国です。シリア人は街を歩いているとずっとういらい話しかけてくるような人懐っこい人たちです。確かに現在、イスラム圏全体の情勢は不安定ですが、このほどぼりが冷めたら、ぜひシリアに行ってみてください。イメージが変わること間違いなしです。私もまた行きたいと思っています。

Dr.ういろ



「はやぶさ」京大へ小惑星探知機「はやぶさ」が京都大学総合博物館で一般公開されました。連日朝早くから長蛇の列ができていたこの催しですが、行ってみると20分くらいの待ち時間ではやぶさにたどり着くことができました（もちろん常設展は飛ばしましたが）。はやぶさは、本体の模型と実際に7年間宇宙へ行っていた内部の電子機器や大気圏突入時の高温で焼かれた外装、地球に着陸するときに使われたパラシュートなどが展示されていて、それぞれについて係りの人がわかりやすく説明もしてくれました。京都大学総合博物館、侮れませんよ。



ベトナムの先生
2月28日午後、ベトナムフエ大学のHo Trung Thong先生による講演会がありました。現在進行中の農学研究科地域環境科学専攻との共同研究プロジェクトについての紹介、ベトナムにおける飼料資源の評価（プロバイオティクス）や在来ブタの遺伝資源保存、小規模農家における山羊飼育など、なかなか興味深いお話でしたね。

修論卒論打ち上げ

発表会終了の興奮も冷めやらぬ2月16日、お馴染み畜資E-303にて修論卒論お疲れ打ち上げが開催されました。加藤さんの研究の中で脂肪酸Caを用いて肥育された牛さんのお肉を焼肉に、広岡先生が「ええタラがあったんや〜！！」と絶賛のタラをお鍋に、そして同じく広岡先生にご購入



いただいたチヌを刺身にと、とても豪華な食卓でした。おいしかったで

す。ご馳走様でした！！

またこの日、新メンバー「ホットプレート」も参入しました。今後の活躍に期待ですね☆

久々に長命さんも参加してください、飲めや歌えの大宴会はつべんを越えても続きました。

M2・4回生の皆さん、本当にお疲れ様でした！

いっしー



カニューレ装着

畜産資源実験系、*in situ* 試験を支えるカニューレ装着術が、2月下旬に行われました。

今回は、4頭の羊に装着するというので、2日間の日程での実施でした。熊谷先生の処置も手早く、助手を務める学生も、てきばきと



仕事をこなし、スムーズな仕上がりがいいのではないのでしょうか。熊谷先生の集中力と体力には脱帽です。予後も安定、液漏れも無いそうです。竹ペレットに副産物を利用したTMRなど、来年度もたくさんの飼料評価実験が予定されているようです。羊君たちがこれらの実験に多いに役立ってくれるといいですね。

ようこ

冬の風物詩

とある土曜日、大学の近くで焼き芋屋さんを発見しました。最近では、めったに見かけなくなったと思っていた昔ながらの移動販売です。夏は、ワラビモチ屋さんなんですかね〜（^^）。



私の地元名古屋では、「い〜しゃ〜きいも〜やきいも」という売り声が一般的なのです

が、このやきいも屋さんは、売り声ではなく高音の笛の音のような音を発しながら移動していました。京都風なんでしょうか？はたまた石焼芋ではない焼き芋屋さんの音なんですかね〜？

ホクホクアツアツの美味しい焼き芋を想像しつつ、姿だけを見送ってしまいました。一本いくらくらいなんでしょうか、次回はおなかですぐいいたいもの♪

ようこ

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも大歓迎です。下記のアドレスまでどしどし送信してください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp

お知らせ

今月のゼミ

今年度のゼミは終了しました。また来年度お会いしましょう～☆
日本畜産学会の発表練習がある場合は、追ってお知らせいたします。

ゼミ係り

Dahlan先生来日

マレーシアプトラ大学のDahlan教授が、3月25日より2ヶ月の予定で当研究室へ客員教授として在籍されます。Dahlan先生はシステム農学がご専門で、1989年に当研究室で学位を取得され、1995年にも日本で研究をされています、今回で3度目の来日、どんなお話がうかがえるか楽しみです。

研究室の動向

卒論・修論も終わり、すっかり春休み気分の研究室ですね。就活で忙しいM1の皆さん、卒業旅行で忙しい4回生の皆さんは、研究室を留守にすることも多くなると思いますが、研究室で所在が把握できるよう、日程を事前に連絡するように心がけましょう！研究室を巣立つの皆さんは、研究データの保存、身の回りの片付け、各種証明書の発行など忘れ物のないようにしましょう。

学会情報

3月27～29日に東京農業大学厚木キャンパスにて、日本畜産学会第113回大会が開催されます。畜産資源学研究室からは、塚原、加藤、酒井、石田、小栗、荒木（敬称略）の6名が研究発表を行う予定です。

2011年3月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
2/27	28	1	2 酒井・荒木	3	4	5
6	7	8	9 児嶋・Cici	10	11	12
13	14	15	16 竹内・西田()	17	18	19
20	21 春分の日	22	23 木村・中川(靖)	24	25	26
27	28	29	30	31	4/1	2

編集後記 最近の気がかりは、一般常識についてです。何を持って常識とするかは所属する社会によってある程度の違いがあると思いますが、大人ならば知っていないと恥ずかしいという部類の事柄もあります。これは、いったいいつどこで学ぶものなのでしょうか？就職するとはじめの研修などで社会一般の常識を習うはずですが、このときまで知らなくて良いのか、普通の企業に勤めない人たちはどうなるのか、老婆心ながら心配です。大学4年を卒業すれば、世間からは立派な大人と見られます。大学院生は、学生と言えど社会人としての常識を身につけていたいものですね。